

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目	数学(理系)
----	--------

総括

試験時間	150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	情報(自然)・農 400点、理・医・工 500点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

4問で150分と時間はたっぷりあるが、どの問題も計算量が多い。

〈特記事項・トピックス〉

求値問題ばかりで見かけの上で証明問題がなかった。③は2008年度名大実戦模試①と類似である。

〈合格への学習対策〉

少々面倒な計算でも確実に処理する学習が必要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
①	記述	Ⅲ・C	2次曲線	方針はすぐ立つ。計算は面倒。	やや難
②	記述	Ⅲ	微分・積分	見かけは複雑。絶対値を忘れないように。	やや難
③	記述	C・B	行列・数列	3の余りで型分けする。	やや難
④(A)	記述	I・B	確率・漸化式	面倒な状況を整理する。	標準
④(B)	記述	I・Ⅱ	整数	典型的問題を拡張したもの。方程式を積の形にして考える。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。